

平成28年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実施報告書

HT28087

赤ちゃんから学ぶ英語学習法---英語が苦手な君に科学からのヒントを



開催日：平成28年7月30日(土)

実施機関：明海大学

(実施場所) (浦安キャンパス)

実施代表者：大津 由紀雄

(所属・職名) (外国語学部・教授)

受講生：中学生15名・高校生1名

関連URL：<http://oyukio.blogspot.jp/>

【実施内容】

○ プログラムの留意点・工夫

- 1 受講者同士による議論が十分できるように、これまでよりも実施代表者・分担者による講義の時間を減らし、その分をグループ・ワークに振り向けた。
- 2 実施分担者と大学院生の中に日本語以外の言語(英語、中国語、ベトナム語、モンゴル語)を母語とする人を配し、受講生が日本語と英語以外の言語にも触れ合う機会を作った。
- 3 実施代表者の専門分野は認知科学、実施分担者の専門分野は言語理論、社会言語学、心理言語学であり、英語学習をさまざまな視点から考えるヒントを受講生に与えるよう努めた。
- 4 これまでは教室を利用してきたが、今回は図書館内に新設されたラーニング・コモンズを利用した。その結果、講義、グループ・ワーク、発表などに対応して、さまざまな形態で椅子の配置が可能となり、実施代表者・分担者にとっても、受講生にとっても、格段に活動しやすくなった。

○ 当日のスケジュール

- 10:00 - 10:30 受付 (30周年記念館 2階図書館入口集合)
- 10:30 - 11:00 開講式 (開講のあいさつ、学長あいさつ、オリエンテーション、科研費の説明)
- 11:00 - 11:40 講義「赤ちゃんの母語獲得の秘密」(大津由紀雄)
- 11:40 - 12:00 質疑応答およびグループ・ワーク
- 12:00 - 13:00 昼食
- 13:00 - 14:00 分担者による講義と質疑応答
- 14:00 - 14:10 休憩
- 14:10 - 15:10 受講者による、母語獲得と外国語学習の違い、効果的な英語学習法についてのグループ・ワークと発表
- 15:10 - 15:20 休憩
- 15:20 - 15:40 まとめの講義 (大津由紀雄、分担者)
- 15:40 - 16:10 修了式 (アンケート記入、未来博士号授与、今後に向けた受講生の決意表明)
- 16:10 解散

## ○ 実施の様子



写真 1

写真2

実施代表者による講義では、「赤ちゃんから学ぶ英語学習法」というテーマに関心を持った受講生に赤ちゃんの母語獲得についてできるだけわかりやすく語り、考えるヒントをちりばめた。ことに、チンパンジーによる「言語獲得」実験の失敗や言語経験をはく奪されてしまった不幸な事例の話については講義後や休憩時間に多くの質問が寄せられた。

昼食は学生食堂を利用し、受講生がなるべく多くの人と話すことができるように、講義時の席とは違った座席配列とした。また、結果として、各テーブルとも大いに話に花が咲いた。

実施分担者による講義も一人一人の個性が活かされたもので、受講者にとって興味深いものであった。瀧田氏は理論言語学(言語の普遍性と多様)、嶋田氏は社会言語学(言語接触)、Nakamura氏は心理言語学(バイリンガリズム)について語った。Nakamura氏は母語である英語と第二言語である日本語を駆使して講義を行った。

グループ・ワークの発表では嶋田氏がコーディネーターとなり、巧みに受講生の考えたところを整理した。

修了式では未来博士号授与の際、一人一人の受講生に今回の感想と今後に向けた決意を語ってもらった。午前中は恥ずかしがっていた一部の受講生も立派に決意表明を行った。

本報告書冒頭の写真は実施代表者による講義、上の写真1はグループ・ワーク、写真2はグループ・ワークの結果の発表の様子を撮ったものである。「プログラムの留意点・工夫」の4に記したように、椅子の配置の自由度が高い会場の利点を活かすよう工夫した。

写真2に写っているように、会場の全面は液晶プロジェクタの投影スクリーンとして利用できるだけでなく、広いホワイトボードとしても活用することができる。また、グループ・ワークのグループごとに可動のホワイトボードを用意したので、各グループの発表を効果的に行うことができた。

今回は実施代表者・分担者・院生・事務職員が一体となって、この企画を盛り上げるため、力を結集したことが成功の大きな要因であったと考える。

## ○ 事務局との協力体制

プログラムの立案から実施まで庶務課を中心として大学事務局と綿密な連絡を取り合い、どの局面においても最大限の協力を得ることができた。

## ○ 広報活動

企画広報課の協力を得て、大学 HP や Facebook に関連記事を掲載した。同時に、多くの定期閲覧者がいる、実施代表者のブログに関連記事を掲載し、その記事を Facebook に転載した。その結果、元記事は多くの人々によってシェアされた。また、ポスターの掲示(約 30 枚)やビラの配布(約 500 枚)を行った。また、浦安市内の小学校の校長先生がビラの配布を申し出てください、その広報効果は非常に大きかった。

## ○ 安全配慮

開講式で、地震などが発生した場合の避難方法について詳しい説明を行った。また、学内の保健管理センタ

一と連携し、受講者が体調不良となった場合の処置についても万全を期した。

○ 今後の発展性、課題

実施代表者が明海大学に着任した初年度においては、代表者・大学ともに広報活動に不慣れのため、ごく少数の受講者しか得ることができなかったが、回を重ねるごとに本企画の知名度も上がり、今年度は定員を上回る参加申し込みがあった（ただし、キャンセルが数名あったため、実際の参加者は16名であった）。これまでは、ことばそのものの性質を探ることをテーマにした年度と外国語の学習をテーマにした年度があったが、2つのテーマは互いに関連しあっている。ここ2回ほど、外国語の学習をテーマにしたので、来年度はことばそのものの性質に焦点をあてることを考えている。

【実施分担者】

嶋田 珠巳 外国語学部・准教授

瀧田 健介 外国語学部・准教授

Keiko Nakamura 外国語学部・准教授

【実施協力者】  5  名

【事務担当者】

竹部 正樹 浦安キャンパス事務部庶務課・課長

池田 朋子 浦安キャンパス事務部庶務課・主幹

二瓶 美里 浦安キャンパス事務部庶務課・主任